

令和4年度 第1回山陽小野田市地域公共交通会議 議事録

令和4年5月30日（月）

1. 報告事項

発言者	発言要旨
	<p>◆高泊地区へのデマンド交通の導入について</p> <p>◆高畑・高泊循環線の路線等の見直しについて</p>
会 長	<p>本件については、昨年度、高泊地区での住民説明会など、地域で具体化に向けた協議を行ってきたところであるが、まだ国への許認可手続や運行計画上の調整事項が残っている。</p> <p>本日は、各委員に対する現状報告とし、所要の調整を終えた後、次回の地域公共交通会議において、改めて協議事項として審議する予定である。</p>
委 員	<p>高泊地区に新たに導入するデマンド交通は、現在、厚狭北部で運行している「殿様号」、「姫様号」のような愛称は考えているのか。車体にステッカーを貼付すれば認知度が高まり、利用促進につながる。</p>
事 務 局	<p>地域の皆様に十分認知され、積極的にご利用いただくため、愛称を設定する方向で検討している。募集時期等は現在、調整中である。</p>
会 長	<p>デマンド交通の利用状況を地域にフィードバックすることは、地域で利用を喚起するうえで重要だが、そうした考えはあるか。</p>
事 務 局	<p>各地域でデマンド交通の必要性、利用促進を考えることは重要である。フィードバックの手法も含め、今後検討したい。</p>
会 長	<p>ぜひ地域に利用状況を伝え、デマンドを支える仕組みを検討してほしい。他市でも同様の事例はある。どのような形が望ましいかは、市の実情によって異なるだろうが、地域で継続的にフォローしていくことが重要である。</p>
委 員	<p>高泊地区のデマンド交通は、来年9月末までの実証運行とあるが、その後の継続についても考えているか。</p>
事 務 局	<p>実証運行を通じて課題やニーズを洗い出し、次期の運行に的確に反映させたいと考えている。</p>
会 長	<p>本件については、事務局において今後詳細を調整し、運行計画が確定した後、8月開催予定の地域公共交通会議で改めて審議することとしたい。</p>

2. 協議事項

発言者	発言要旨
	<p>◆地域内フィーダー系統確保維持計画（案）について</p>
会 長	<p>高泊地区については、まだ運行計画が確定していないため、現時点では計画を審議できない。そこで本日は、運行計画が確定している「殿様号」、「姫様号」のみ先行して審議する。</p>
会 長	<p>「殿様号」、「姫様号」は、コロナ禍の影響等で利用が低迷している。これからどうし</p>

	ていくか、しっかりと考えなければならない。本計画について、当会議として承認したとしてよいか。
委員	異議なし。
	<p>◆地域公共交通計画の策定について</p> <p>◆山陽小野田市地域公共交通会議設置要綱の改正について</p> <p>◆令和4年度山陽小野田市地域公共交通会議予算（案）について</p> <p>◆地域公共交通計画策定調査業務の委託について</p>
会長	<p>地域公共交通計画については、本日の会議で策定について合意を得た後、市と受託業者において策定に着手する。</p> <p>今後の地域公共交通会議で事務局から案が示される予定である。現時点で何かご意見があればお願いしたい。</p>
委員	<p>先日、JR西日本が赤字路線について公表し、本市では、小野田線、美祢線が対象とされた。市民として、今後どうなるのか関心が非常に高い。</p> <p>両路線は、今後も継続するものとして計画に盛り込むのか、それとも廃線を待つつもりなのか。どういったスタンスに立って計画策定を進めるつもりなのか。</p>
事務局	<p>両路線とも本市の財産であることから、本市として何としても維持したいと考えおり、地域公共交通計画には現状どおり盛り込む予定である。</p>
委員 (JR西日本)	<p>4月11日に弊社が発表した「ローカル線に関する課題認識と情報開示について」目的等について説明する。</p> <p>ローカル線については、コロナ前からご利用が少なく課題であった。この度輸送密度2,000人/日未満の線区についてお示ししたところで、これは移動特性や移動ニーズを踏まえたうえで、地域の皆様とともにまちづくりにあわせた持続可能な交通体系等を模索・実現していくことが必要と考えてのものである。</p> <p>このような取組みにあたって、地域の皆様と課題を共有しより具体的な議論をさせて頂くためには、線区の収支率や営業係数などといった経営状況に関する情報も必要と考え、一定の前提をおいた数値をお示ししたところである。</p> <p>現在、報道関係の論調では、出口論のことが多く伝えられているが、我々としては、今後、さまざまな場所で課題を共有することからはじめることが必要だと思っており、引き続き連携をお願いする。</p>
会長	<p>JRの問題は、厳しい議論となるが、避けることのできない重要なテーマである。</p> <p>現在の利用状況やJRの収支状況を踏まえ、小野田線、美祢線のサービス内容や水準が、ずっと今のまま継続するというのは難しい。鉄道の価値をどう考え、どの程度重視し、誰がそれに責任を持つのか。地域として考えなければならない。</p> <p>今回の計画でどこまで踏み込めるのかは分からないが、鉄道の位置づけは明確にしなければならない。宇部市や美祢市など、近隣市との連携も重要となる。</p>
委員	<p>高齢化による免許返納者も増え、公共交通の必要性が増している。デマンド交通の対象地域へのPRや計画での整理が必要である。</p>
事務局	<p>今後、高齢化がますます進展する中で、免許返納は重要な視点。計画にも的確に反映させたい。</p>
会長	<p>今後の計画策定について、以下の点を特に検討して欲しい。</p>

	<p>①まず、前計画の振り返りが重要である。何が実現できて、何が積み残しとなったのか整理してほしい。</p> <p>②バスの利用者が減少し、タクシー含め運転手不足も深刻な状況にある。これまで以上に、地域で公共交通を支える仕組みが重要となる。</p> <p>③先ほども議論があったが、今回のＪＲ西日本の方針を踏まえ、鉄道の位置づけ、あり方について検討する必要がある。</p> <p>④鉄道、バス等の公共交通は近隣市とも密接な関係にある。市域を越えた連携を深めて欲しい。</p> <p>⑤理科大との関係など、まちづくりの観点から、市民の利便性を向上するため、公共交通に何ができるのか、今後に向けた整理が必要である。</p>
会 長	本日の協議事項として、地域公共交通計画は当会議として策定、それに関連する要綱の改正、予算、業者選定も承認ということでよいか。
委 員	異議なし

3. その他

発言者	発言要旨
	サンデン交通の路線短縮について
委 員 (サンデン交通)	当社は、これまで下関駅から小野田、宇部中央までの長大路線を運行してきたが、10月以降、宇部市への乗り入れをとりやめ、小野田停まりとしたいと考えている。コロナによる収入減の回復の見込みがたたない中、運転手不足等の課題もあり、路線の効率化を進めることによって、全体的な路線の維持・確保を図るためである。ご理解をお願いしたい。
	閉 会